

真昼に撮る深い夜、デイ・フォー・ナイト (Day for Night)

記事のURL

<https://www.gklibrarykor.com/ja/article/10552/>

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

映画の中の深い夜、青い月明かりの下で主人公が馬に乗って砂漠を横切る場面を見たことがあるでしょう。ところが、こうした場面の多くは実際には夜に撮影されたものではありません。太陽が頭上に昇っている真昼に撮影したあと、画面を暗く青く変えて夜のように見せている場合が少なくありません。この技法を指す言葉が「デイ・フォー・ナイト (Day for Night)」です。デイ・フォー・ナイトとは、簡単に言えば「昼に撮った場면을夜の場面のように見せる撮影技法」のことです。フランスでは、アメリカ映画でよく使われたことから、この技法を「アメリカの夜 (La Nuit Américaine)」と呼ぶこともあります。本記事では、デイ・フォー・ナイトが生まれた理由から、夜を再現する具体的な方法、映画の代表的な例、そして今日の変化までを順に見ていきます。真昼につくる偽物の夜、デイ・フォー・ナイトの原理と活用 なぜ昼に夜を撮るのか？ 夜の場면을わざわざ昼に撮るのには、はっきりとした理由があります。(1) 暗闇を捉えられないカメラ人の目は暗さに慣れると、月明かりだけでも周りをかなりよく見分けられます。しかし、フィルムやデジタルのイメージセンサーは人の目ほど暗さに敏感ではありません。月明かりの下でそのまま撮ると画面が暗くなりすぎ、俳優の顔も周りの風景もほとんど見えなくなります。広い野原や砂漠全体を夜に明るく照らすには